

うごんじゃ駄目なんですか？

定型でもないし、その律もないのだが川柳性を感じさせるのは何か。読者が言われた記憶。言った記憶。その記憶が読み手それぞれに場面を想像させるからだろう。

何もかも上司につげる友がいる

これは友と呼べる相手なのだろうか？という疑問が浮かぶ。確かに親友とまで呼べる友人は少ないものなので、この「友」の範疇の人間関係を考えさせられるところが面白いといえば面白い。

生きてれば逢える遙かな人を恋う

あの世へ行って帰ってきた人はいないから、あの世でまた逢えるというのは保証のない話 作品全体に強い意志を感じる。

退職辞令まるめて覗くあかね雲

JALの退職勧告は厳しいようだ。「イエスでもノーでも結果は退職です」などと言われるという。この句の場合は東雲ではなく日没時の茜雲だろう。まるめて覗くというペーソスがいい。

本当はまだ少しある高望み

少しでも高望みは高望み。人の心理の面白さである。

鱗雲いつか来る日の靈柩車

「いつか来る日」だと強すぎる。「来る日」という塩梅がよい。

預かりの揭示入れ歯の落し物

近所のお寺の揭示板。どという状況で入れ歯が落し物になるのだろうか。事実は小説よりも奇なり。

友が逝くもつ語れない秋時雨

下五が良い。もっと語り合つ事柄はあるのだけれど、天候のことすら語り合つことが出来なくなった。切ないです。

何かよいことがありそつ蚤の夢

蚤をつぶす夢は、ライバルに打ち勝つという良い暗示だそう。逆に蚤にたかられる夢は焦りを表しているという。作者は夢で蚤を退治したのだろう。

栄養士免許味には無頓着

学校給食の献立は大変だと聞く。予算の枠があって、栄養素が第一義なので、味や見かけに構っていられないのだとか。

くつきりと畦のポディコン嬰珠沙華

「畦のポディコン」とはユニークな表現。畦にびったりと沿っているという意味か。それならば「くつきりと」という上五について検証してみたい。

ミスリードした新聞の知らんぶり

このところテレビや新聞の報道に疑問を感じる声をよく聞く。もしかしたらマスコミはこれまで通りリードしているのだけれど、視聴者の目が変わってきたのかもしれない。

秋晴れへ始発で向う登山靴

中七の表現が良い。清々しさを感じる。

動画から一部始終を見せられる

情報の共有という概念が未だ広く理解されていないところが、中国船衝突事件における政治のドタバタだろう。

発想がマンガ カプセルで救出

チリの落盤事件で、この切り口の作品は見たことがなかった。

振り向けばママが手を振る鼓笛隊

街のイベントなどで見かける子供たちのマーチン具バンドほイメージした。

押し黙る家族会議にポチ吠える

いつもと違う空気に愛犬が反応したのだろう。下五が良い。迎え打つバットへボール点になる

ボールが止まって見えたのは川上哲治氏、王貞治氏は縫い目が見えたという。イチロー選手はどのように見えているのだろうか。

満州を再興したい人があり

尖閣諸島で起きた事件をつけての中国批判の事か、北京と上海の対立か、欧米と中国の関係なのか、具体的な事柄が見えにくい。

正直な鏡を少し曇らせる

正直すぎる鏡には、今の自分がそのまま映ってしまつ。少しぼやかしてくれたほうが良いのにといい気持ち。不安感をイメージさせる。その不安感が鏡を見させるのだが、といつところが面白い。

敗戦の玉音という聴取率

おそろくのパーセントだったでしょう。

捨てるのも買つのも好きで生きびひい

広告代理店の心得の逆を行くような作品。下五に何かに消費をせかされる焦りのようなものが見えて面白い。

八百屋さん松茸鎮座レジのきわ

貴重な品物はレジのそばに配置されるのでしょ。

もう一社受けて青空抱くつもり

全般的に有効求人倍数が低い中、新卒の就職環境も厳しさを増している。何十社も受けている生徒はざらだし、採用情報を漏らさないようにとスマートフォンを持つことが当たり前のようになっている。青空が青い鳥にならなければ良いが。

実りある婚姻実りある死別

どんな事柄でも、その後の捉え方で変わることだ。婚姻と死別を並べた効果に既視感を持つ人がいるかもしれないが。

歯が抜けた日の ハハキトク チチキトク

電報分のような表記は古いか。歯の抜ける夢は不吉だというが。

みんなしてせまいニッポンとりこくる

「せまい」が政治家だけでなく、日本人全体の視野の狭さ、というアイロニーになっているのでは。海洋面積を入れると日本は結構広い国である。

勿体無いがチャペルホテルと間違える

「勿体無いが」は「間違える」に掛かるのか、「勿体無い」が口癖の人のことか。チャペルとホテルを間違えたのか。難解。

白いのと無いのを競うクラス会

頭のこと。既視感が強い。突っ込んで読めば、それだけ男性が集まるクラス会だということ、めでたい事ではある。

人間もいずれ必ず塵芥

これは必然であって、何かそこに驚きが欲しい。

厚化粧持て余してるマニフェスト

素顔はここまで酷いかというがっかり感につながる。既視感はあるが、厚化粧という表現が面白い。

生きてれば逢える遙かな人を恋う 石田きみ
常日頃尊敬してゐる方にお逢いしたいと思ひ続け
ているうちに、ふっとチャンスに恵まれて、お逢
いして来ました。永い間念願していた時の句です。

友が逝くもう語れない秋時雨 飯島圭子

今年は周りで亡くなる人が多くて、私もその年齢
になってきたようで、寂しく思っています。
特に長年親しくしていた友人が、あっけなく亡く
なり、なんでも話せる人で唯一の飲み友達でした
ので、もつと話したかったのに、また旨い酒を呑
みに行きたかったと夫や母を亡くした時と、また
違った寂しさ悔しさを野辺送りの後詠んだ句で
すが、上手く詠めません。

何かよいとがありそつ蚤の夢 正木三路

近頃の良いこととは、蚤の見る夢のように小さい
もんですね。

くつきりと畦のボディコン曼珠沙華 萩原とも
よ

田圃の土手をふちどる赤い曼珠沙華がくつきり
と美しかったです。

正直な鏡を少し曇らせる 三宅

余りはつきりと私の心身を映さないでねという
気持ち・

八百屋さん松茸鎮座レジのきわ 棚瀬くんじ

コメントはありませんでした。

厚化粧持て余してるマニフェスト 利江

今子供手当や八ッ場ダム等右往左往している政
府を詠んでみました。

「骨」石田きみ

飢餓の国明日無きあばら骨を抱き
遺失物遺骨も並ぶ平和ボケ
子を頼む抱く骨壺の声を聞く

「骨」飯島圭子

頑固だが背中まあるくなつた父
無重力宇宙飛行士骨粗鬆
鉄骨に筋交い咬まし補強する

「骨」正木三路

骨折つたわりに恵まれない結果
木枯らしが骨まで沁みる文化の日

「骨」萩原ともよ

接骨院自然治癒力当てにする
骨ソ予防煮干残さず食べてみる
とりあえず骨太になれ日本国

「骨」ヨモギ

二日酔い骨身に沁みる休み明け
骨太の顔して砂糖二つ入れ
散骨は宇宙船からして欲しい

「骨」棚瀬くんじ

大歌舞伎ぱつと開いた傘の骨
骨のある外交しろよとつま楊枝
理科室は怖くて行けぬ一年生